



# ガハテ村通信

篠山ナマステ会 事務局 〒669-2341 篠山市郡家61-1 振替口座 00930-6-29629



「友情のオレンジ」と書かれた標柱を囲むツアー参加者とピシヨさんたち

## PHDネパールスタディツアーに参加 オレンジ畑に友情の標柱

PHD協会が3月に開催したネパールスタディツアーに、篠山ナマステ会から幹事3人が参加し、ガハテ村を訪ねたり、元PHD研修生のピシヨさんらと再会したりしました。

ガハテ村へは、日本から「友情のオレンジ」と書いた標柱を持参し、支援と交流の10周年を記念して2010年夏に植樹したオレンジ畑に立てました。しかし、畑はきれいに耕されてはいるものの、12月からほとんど雨が降っていないようでオレンジには元気がありません。気候風土はオレンジ栽培に向いているものの、ガハテ村の痩せた土壌での栽培は、簡単なものではないようです。この標柱と共にオレンジの成長を見守りながら、私たちに何ができるか考えていきたいと思います。

# スタディツアー報告



小麦畑で収穫作業を手伝うスタディツアー参加者たち

## ガハテ村で農業体験

今回はツアー参加者が、ガハテ村で元PHD研修生のビシヨさんたちと一緒に農業体験を行いました。ネパールは乾季には雨が降らないため、オレンジ畑では協同組合員たちが泉から引いたパイプの水で、水遣りをしていました。その保水力を少しでも高めようと、根元に堆肥を埋める作業を手伝いました。堆肥といっても野積みのまま置かれていたもので、栄養分は雨季に全て流されていて、ガサガサに乾燥しきったものですが、一つ一つのオレンジに

埋め込んでいきました。

オレンジ畑の手前にある畑では、小麦が収穫期を迎えており、麦刈りのお手伝いもしました。この小麦も、蒔かれたままでほとんど分けつけず、草丈も三十〜五十センチほどのもので、栄養失調状態です。ガハテ村の痩せた畑での生産力では、これが限界なのかもしれません。

また、日本からカボチャの種を一袋持参し、忙しいビシヨさんらに代わって参加者で種まきを行いました。用意してもらった畑に堆肥場から腐葉土を運び、掘り返した土と混ぜ合わせて種をまき、水をやって日覆いをする、という簡単な作業でしたが、落差の大きい土手を上がったたり下がったり、実に大変で、ガハテ村での生活の厳しさを、身をもって感じさせられました。

## 成績優秀者の表彰式に参加

ツアー期間はネパールの春休み中でしたが、セティディビ小学校では、ガハテ・カトマンズ連絡会の皆さんから、成績優秀者への表彰式が開かれました。

ガハテ・カトマンズ連絡会は、ビシヨさんらカトマンズに在住するガハテ村出身が作る、「頼母子講」のような相互扶助グループです。前回のスタディツアーでも定例会に参加したのですが、そのグループの会員が今では二十人ほどに増えたそうです。毎月五百ルピーの掛け金を出し合っており、その剰余金をセティディビ小学校の卒業生に奨学金として贈るなどしています。故郷への熱い思いが集まった連絡会の皆さんの善意に、心を打たれました。

しかし、セティディビ小学校としての大切なセレモニーの表彰式に、サプコタ校長の姿はありませんでした。村民や卒業生の支援で行われる行事に、学校の責任者である校長が出席しないのは、わ

れわれ日本人からは理解に苦しむところです。

またサプコタ校長は、セティディビ小学校の関係者と情報交換をしようとクンタ村のSSS事務所で開いた話し合いの場に、時間になっても現れませんでした。結局サプコタ校長不在のまま、話し合いを行うことになりました。

## 水道が出ず、児童減少の一因に

話し合いでは、セティディビ小学校がさまざまな課題を抱えていることが明らかになってきました。まずは、児童数の減少です。表参照。ネパールでも急速な都市化が進み、ガハテ村からカトマンズなどへ流出する住民も増えていきます。それに伴い、子どもの数も減っているのが一因ですが、それだけではないようです。近隣にある他の学校に転校する子どもが増えているというのです。

その理由の一つとして、水の問題があります。二〇〇六年に篠山ナマステ会が支援してパイプを敷設し、学校に水道が引かれました。これは学校だけでなく、村の水道としても大いに活用されてきましたが、何らかの理由でパイプが詰まり、今では水が出なくなってしまうのです。飲み水もなく、トイレも使えないのです。SSSや村人が、詰まりの原因を調査しようとしたのですが、数キロの長さのパイプを全て調べることができず、解決には至りませんでした。

## セティディビ小学校の児童数

年度	男子	女子	合計
2010	79	66	145
2011	50	43	93
2012	41	41	82

## 学校運営に関する問題

児童数減少の第二の理由として、学校運営に関する問題が挙げられます。

民営の学校として発足したセティディビ小学校は、二〇〇七年度よりコミュニティスクールになり、ネパール政府が主管する学校として運営されています。それに伴い、篠山ナマステ会が教員給与として支援していた資金提供も、二〇〇九年度末で終了しています。当会としては、政府主管となり、当会のカウンタートパートであるサム・セフ・サムハ(SSS)の支援も受けて適切な学校運営が進められているという認識でした。

しかし、コミュニティスクール移管後は、施設・設備や備品などの管理・保全が不十分だったといえます。校舎の老朽化も進み、学校が清潔で整った環境ではなくなり、保護者や児童たちにとって魅力のある学校ではなくなってきたというのです。

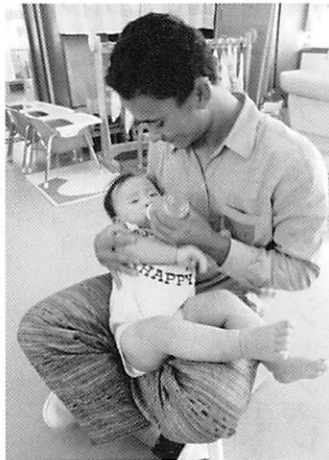
## コミュニケーション不足も一因

このような問題が二〜三年の間に明らかになってきたにもかかわらず、学校運営委員会は問題解決のために機能していなかったといえます。SSSも、学校やガハテ村に対して十分な指導、アドバイスができておらず、当会にも適切に情報提供してこなかったのも問題です。また、学校ができた当初は、村全体で学校を作り、盛り立てようという機運がありました。年を経るにつれてその意識も変わってきたようです。

さらに、当会としても日本とネパールという距離的な制約があるとはいえ、セティディビ小学校への

関与が相互理解を深める交流になつていなかったのかもしれない。話し合いにサプコタ校長が参加しなかったのも、当会と彼との間に十分な意思疎通ができていなかったからだと考えられます。これは率直に反省すべきことでしょう。

今回のツアーをきっかけに明らかになった問題に対し、当会はず、水の問題を解決しなければならぬと考えています。また、これだけでなく今の諸課題を正しく把握するためにも、ビジュニユマニ・ネパールさんにセティディビ小学校やガハテ村の情報や意向を、これまで以上に報告するよう依頼しています。



ささやま保育園での保育研修で赤ちゃんにミルクを飲ませるアチャンマさん

## PHD研修生の篠山での研修について

ガハテ村から来日中の二人のPHD研修生が八月、篠山で研修を行いました。セティディビ小学校卒業生のアチャンマ・ラマさんは、八月十一日から二十八日まで、ささやま保育園で保育研修し、丹南健康福祉センターで保健衛生や健康管理について学びました。また、アチャンマさんは篠山ロータリークラブの支援を受けており、八月二十二日には同会への月例研修報告を行いました。ランマヤ・タマンさんは八月初旬からの二週間、円谷農園で有機農業

研修を行いました。

アチャンマさんの受け入れでお世話になった、ささやま保育園の山田ひろみ園長に、研修の様子を伺いました。

## 行動する姿に思いやり感じ感銘

ささやま保育園長 山田ひろみさん

研修初日、「おはようございます」と挨拶をし、少しはにかむ姿は、日本の同世代の人たちと変わりが無いように見受けられました。

保育室の入り口で恥ずかしそうに居るアチャンマさんを見つけると、子どもたちは、いきなり膝に乗ったり、抱いてもらったりと大喜びでした。ここで一気に彼の気持ちがほぐれてきて、笑顔が見られ、子どもや保育士との会話も弾んできました。

一方では、保育士が忙しく働いていると、何でも「やりませ」と素早く行動する姿に思いやりを感じて、とても新鮮でした。

海外研修生と出会えたことで、私たちは、物資豊かな生活の中で大切なものを置き忘れてきていることに気づかされ、たくさんのことを学ぶことができました。

いい出会いがありました。

\* \* \* \* \*

## ホームページをリニューアル

篠山ナマステ会のホームページを更新しました。当会の活動をよりわかりやすく紹介しようと、サイトの構成を整理し、日常活動の情報も発信するようにしました。サーチエンジンで「篠山ナマステ会」と検索し、是非ご覧ください。



PHD 研修生帰国報告会で篠山ナマステ会員らに囲まれるパッサンさんとラメシュさんたち。

平成二十三年度のPHD研修生として篠山などで学んだパッサン・ラマさんとラメシュ・カジ・シユレスタさんから、お礼の手紙が届きました。

## 有機農業に取り組みたい パッサン・ラマさん

私は日本に来て一番最初に日本語を勉強しました。なぜなら日本語ができないと研修もできないと思っ  
てがんばりました。そして日本で有機農業や洋裁や  
保健衛生などを勉強しました。やっぱり私は化学肥  
料と農薬全く使わない農業をやりたいと思って日本

に来たから、一番最初に有機農業のことを勉強しま  
した。例えばひもを使って二十五センチの間に田植  
えしたら、風が稲の中に入って病気になる方法  
と、トマトのわき芽を取ったら残った木に栄養が入っ  
て大きいと元気なトマトを取れることを勉強しまし  
た。そして草マルチと燻炭のことも勉強しました。

それだけじゃなくてやっぱり有機農業やろうと  
思ったら一番大事なものは肥料です。だから土着微  
生物菌作り方を勉強しました。それはとてもいい肥  
料でした。なぜなら土着微生物はお米、ぬか、お砂  
糖と土でできるから栄養が高いです。その肥料は畑  
に使うと土の中にある生き物がよくなって野菜や  
果物も元気になります。そして漢方栄養剤作りも勉  
強しました。もしどうしても悪い虫が入って野菜や  
果物を食べたなら漢方栄養剤を使います。

村のお母さんたちは勉強がしてないので、栄養のバ  
ランス取れることがなかなかできてないです。だから

## 鶏の病気について勉強し手応え

### ラメシュ・カジ・シユレスタさん

篠山ナマステ会のみなさん、やさしいから勉強も  
いいでした。そこで一番最初は学校でイチゴとホウ  
レンソウの作り方を勉強しました。籾殻と米ぬかと  
EMで発酵させて肥料作り方と黒豆からお茶の作り  
方を勉強しました。

そのとき小嶋先生の家でホームステイしました。  
お母さんから作るおいしいおいしいご飯食べました。  
そのときとても楽しいでした。若狭さんとシヨバ  
ナさんの家に泊まったときとても楽しいでした。

渡辺さんの家いるとき鶏の育て方と病気について  
勉強しました。育て方は雛を入れ、上からかさの中  
にヒーターを入れて十日間まで三十度ぐらいに温度

保健衛生のことも勉強しました。その後はナマステ  
会の皆様のおかげで洋裁を学ぶことができたからと  
てもよかったです。そのときはナマステ会の皆様の温  
かい愛がもたらして、もつともつとがんばりたいになり  
ました。そのときズボン、ワンピース、スカート、甚  
平さん、シャツ、かばんとシユシュを作りました。ネ  
パールと日本の洋裁のものを使うけど、先生が上手  
に教えてもらったからいっぱい勉強になりました。

そして村にあんまりきのこができないからどうして  
も栄養のバランスをとりたいと思っただけの勉強  
もしました。それは原木と菌床のことでした。原木は  
自然のしいたけと菌床はハウスのなかで作っていまし  
た。だけど原木のほうがおいしかったです。だから私  
もネパールへ帰って栗の木に植えてやってみます。

本当に大変いろいろお世話になりました。どうも  
ありがとうございます。これからもよろしくお願  
いします。

入れると鶏あんまり病気になりません。鶏の肝臓の  
病気とお腹の中に水溜りと足が動かない病気がマ  
レック病(MD)です。小さいのときにMDワクチ  
ンあげない鶏にこの病気になります。生まれてすぐ  
雛にMDワクチンあげるとその病気になりません。

鶏小屋が汚いと冷たいとその汚いから鶏のお腹に  
ばい菌入って、緑と赤いウンチして死ぬの病気につ  
いて勉強しました。その病気ならないために小屋  
汚いなる前、新しい籾殻入れるとばい菌が鶏の中に  
入るはできません。その病気になる鶏に抗生物質を  
あげると元気になります。そのことが渡辺さんから  
勉強しましたからとてもいい勉強と思えました。渡  
辺先生の家でホームステイした家族とても優しいで  
したと、とても楽しいでした。

ナマステ会のみなさんありがとうございます。